

長崎大学病院 高度救命救急センター 救急・国際医療支援室

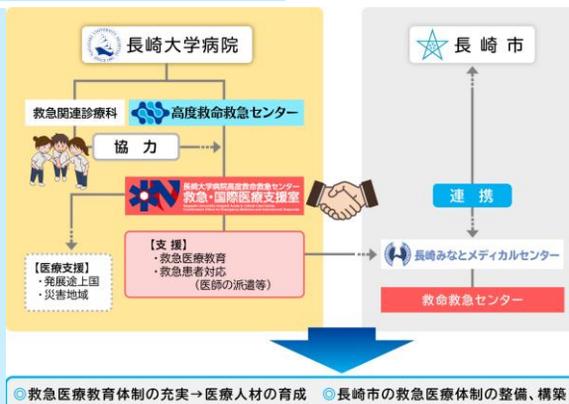
- 幅広い**救急疾患**を**豊富**に経験したい！
- **研究**もしたい！
- **国際医療**をしたい！
- **救急医療**に興味がある！
- **国際的**に働きたい！
- **他の診療科**領域でも学びたい！

それできます！ 救急・国際医療支援室について

長崎市と長崎大学は、長崎みなとメディカルセンター（旧：長崎市民病院）に救急医を派遣すべく、令和2年1月1日に、長崎大学病院高度救命救急センターに救急・国際医療支援室を開設しました。国際医療に興味のある人材を積極的に雇用しています。令和2年2月からは、長崎みなとメディカルセンター救命救急センターを開設し、コロナ渦ではありましたが、長崎医療圏の救急医療を進化させるべく様々な取り組みをしてきました。

海外活動実績としては、支援室設置後これまでに6名の医師を海外派遣してきました。

「救急」は、救命医療に特化した医療を提供する。「国際」は、国を跨いでも臨機応変に対応できる。「医療支援」は、どこにいても何があっても安定した医療を提供できる。このような医師を育てることをモットーに日々頑張っています。



◎救急医療教育体制の充実→医療人材の育成 ◎長崎市の救急医療体制の整備、構築



長崎大学病院高度救命救急センター
救急・国際医療支援室
教授 早川 航一

「やりたいことを応援する」ことが自分の使命だと思います。2020年から開始して今まで6名の医師を海外医療支援に出しています。救急・国際医療支援室としては2名の医師が定期的に海外研究に参加しています。国内では、救急医療だけでなく、産婦人科や外科研修の希望がある医師には、積極的に他科の診療に参加してもらいます。救急医以外でも自分の専門性を生かした働き方ができるよう、サポートしていきます。国際医療をしたい方は、ぜひ見学に来てください。

救急・国際医療支援室は、長崎大学病院 高度救命救急センターの下部組織です。専門医研修プログラムには入っていませんので、各プログラムが終了した後は、入職可能です。

【所属】

長崎大学病院 高度救命救急センターです。

【勤務先】

長崎みなとメディカルセンター 救命救急センターです。

【選べる研修・研究】

採用後6か月間勤務した後、1年のうち3ヶ月間は退職することなく有給で国際医療支援や研究が集中してできる仕組みを作っています。国際医療支援以外でも、長崎みなとメディカルセンター内の診療科で研修することができる仕組みを作っています。基本的には、救命救急センターでの外来・入院患者診療ですが、希望があれば院内の他科での研修が可能です。



例示 (図)



【メリット】

- ・国内では救命救急センターで経験豊富な指導医の指導のもと内科・外傷系の研鑽が積めること
- ・みなとメディカルの他科での研修を行い海外派遣に備えることも可能であること
- ・海外で学んだことを国内の臨床・教育に活かすことが可能
- ・臨床、研究など海外活動には幅広い選択肢があること
- ・2年スパンで考えると、連続6か月間の海外勤務が可能

【デメリット】

- ・内科医や外科医も救命センターでの勤務が基本 (苦手分野は積極的にサポートします!)



【国際医療支援】

・MSFやJICA等、派遣依頼機関 (国際協力等の目的でわが国が加盟している国際機関、外国政府の機関など) を使用して国際医療支援に行くことが可能です。

・国際医療支援で経験したことを帰国後の臨床で生かし、情報を共有することで次の医療人材育成に取り組むことができ、双方にとってwin winの関係を保つことができます。

【研究】

- ・自身で研究している人は、(国内外問わず) その研究を応援します。
- ・派遣期間は、国内外問わず研究だけを集中して行うことができます。

【他科研修によるトレーニング】

長崎みなとメディカルセンターには、総合病院として様々な診療科があります。その中で学びたい診療科への研修期間を作っています。
 実例) 医師10年目、国際医療支援に行くため産婦人科で基礎を学びたい。
 →2か月間産婦人科で研修後、国際医療支援に出向



長崎は、大型旅客船が定期的に入ってきます。観光地としても人気があり、多くの外国人患者さんにより、外国人患者さんをスムーズに診療できるようにになりました。

【フィリピンで研究支援をした看護師】

学生の頃より途上国に興味があり、国内外で活躍する看護師になりたいと思ってきました。「救急・国際医療支援室」は、海外での研究や医療支援活動を行っている医師がおり、さっそくジフテリア研究支援活動を行ってきました。日本ではほとんど診る機会がありませんが、フィリピンでは未だに多くの重症例、死亡例が報告されています。今後、自身の課題を高められるよう、日々自己研鑽を重ね、現地スタッフと共に、試行錯誤しながら取り組んで行きたいと思っています。



救急・国際医療支援室は、医師だけでなく看護師などのコメディカルスタッフも募集しています。ご興味のある方は是非お問い合わせください。



【現在、フィリピンで研究している医師】

救急・国際医療支援室における海外活動の一貫として、フィリピンで蛇咬傷の研究を行っています。蛇咬傷はWHOも警鐘を鳴らす顧みられない熱帯病として、世界的に重大な健康課題です。ビサヤ州立大学との共同研究として、新規診断法の開発と地域サーベイランスに取り組んでいます。大学は首都マニラとは離れたレイテ島のバイバイ市に位置し、自然たっぷりのキャンパスの中で現地スタッフとともに研究に取り組んでいます。毎年海外へ送り出してくれる救急科スタッフには感謝しかありません。



【お問い合わせ先】

長崎大学病院高度救命救急センター
 救急・国際医療支援室
 nucoemir@ml.nagasaki-u.ac.jp

HPはこちら→

